

別記様式第14号－1(第27第4項関係)「特別交付型交付金」
令和6年度 消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金)都道府県等成果及び評価報告書(令和7年8月作成)
(令和6年度当初予算分)

都道府県等名:愛媛県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標値	達成度		
Ⅱ 伝染性疾 病・病害 虫の発生 予防・まん 延防止	家畜衛生の推進	豚熱・アフリカ豚熱のまん延防 止 高病原性鳥インフルエンザの まん延防止	豚熱・アフリカ 豚熱のまん延 防止 高病原性鳥イ ンフルエンザ のまん延防止	達成	愛媛県	豚熱・アフリカ 豚熱のまん延 防止 高病原性鳥イ ンフルエンザ のまん延防止	達成	552,000	
総計・総合達成度				総合達成度 達成 総合評価 適正				552,000	

国による評価の概要

総合達成度は「達成」であり、総合評価「適正」は妥当と判断する。なお、事業は適切に実施されたと評価する。

目標 家畜衛生の推進					
事業実施期間 令和6年度			都道府県等名 愛媛県		
【事業の実施方法】					
<p>国内においては豚熱の発生が継続し、また、近隣アジア諸国ではアフリカ豚熱が断続的に発生していることから、豚熱・アフリカ豚熱の本県への侵入リスクは依然として高く、渡航者等による本県への豚熱等の家畜伝染病の侵入を防止するため、県内空港（松山空港）において靴底消毒を実施し、水際対策を強化する必要がある。</p> <p>また、本県や隣県での高病原性鳥インフルエンザ発生に対して、鶏舎及び鶏舎周辺の消毒を実施するための体制を整備することで、県内養鶏農家での本病の発生を未然に防止する。</p> <p>このため、「家畜衛生の推進」の目標値を達成するために、以下の取組を行う。</p> <p>（２）家畜の伝染性疾病の発生予防 地域における発生予防の体制整備（空海港の消毒） 野生動物や環境からの家畜の伝染性疾病の感染予防（緊急消毒の実施）</p> <p>〈目標値の考え方〉 豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止 現状 豚熱・アフリカ豚熱 発生 0件</p> <p>高病原性鳥インフルエンザのまん延防止 現状 高病原性鳥インフルエンザ 発生 2件</p>					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
家畜の伝染性 疾病のまん延 防止	豚熱・アフリ カ豚熱のまん 延防止	豚熱・アフリカ 豚熱のまん延 防止 高病原性鳥イン フルエンザの まん延防止	豚熱・アフリカ 豚熱のまん延 防止 高病原性鳥イン フルエンザの まん延防止	達成	適正
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率 (%)	
（２） 家畜の伝染性疾病の 発生予防	地域における発生予 防の体制整備 （空海港の消毒）	1,101,100	550,000	49	
	野生動物や環境から の家畜の伝染性疾病 の感染予防（緊急消毒 の実施）	4,573,228	2,000	0	
計		5,674,328	552,000		

【事業の成果】

1 事業実施内容

(2) 家畜の伝染性疾病的発生予防

(イ) 地域における発生予防の体制整備

b 発生予防の体制整備

松山空港において靴底消毒を実施し、本県における水際対策を強化することで、渡航者等による本県への豚熱等の侵入を防止することができた。

地域における発生予防体制整備

委託契約：靴底消毒請負業務委託

委 託 先：株式会社 和光ビルサービス

委託内容：松山空港に設置している靴底消毒マット等の維持・管理

(消毒マットへの消毒薬の散布 2回/日×364日) 年契約

(うち1日は台風により実施せず)

(ウ) 野生動物や環境からの家畜の伝染性疾病的感染予防

b 緊急消毒の実施

高病原性鳥インフルエンザが隣接県(香川県)で発生し、本県への侵入リスクが非常に高くなったことから、県内の養鶏場113農場に対して、鶏舎及び農場周辺の消毒に必要な消石灰を配布し、緊急的な消毒を実施することにより、発生予防対策を強化した。

消石灰配布量：90,4t (4,519袋×20kg)

2 成果

豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止

・実施後

豚熱・アフリカ豚熱の発生件数 1件

高病原性鳥インフルエンザのまん延防止

・実施後

高病原性鳥インフルエンザの発生件数 2件

・達成度 : 達成

【都道府県等による評価の概要】

人流を介した感染地域の拡大や養豚農家へのまん延を防止するため、水際対策の強化として、松山空港における靴底消毒を実施することで、県内へのアフリカ豚熱の侵入を防止する効果があった。

また、令和6年度は豚熱、高病原性鳥インフルエンザともに県内で発生があったが、豚熱は1事例、高病原性鳥インフルエンザは2事例以降続発せず、本事業によりまん延を防止できたと考える。

なお、令和6年度は県内野生イノシシで6件、豚熱陽性事例があり、アフリカ豚熱は韓国で飼養豚と野生イノシシの発生が続発しており、特に釜山で野生イノシシの陽性事例が確認されている状況である。県内への侵入リスクが高いため、引き続き、本県における豚熱・アフリカ豚熱の侵入を防

止するための水際対策を継続するとともに、関係機関と連携強化し、家畜伝染病の発生予防の体制を整備していきたい。

【専門家の意見】

【岡山理科大学獣医学部 非常勤講師 増田 恒幸】

アフリカ豚熱は韓国で発生が継続し、地理的に西日本に近い釜山でも野生イノシシでの発生が確認されており、本病はいつ国内や県内に侵入してもおかしくない状況である。また、豚熱は九州でも飼養豚や野生イノシシでの発生が確認され、ほぼ全国に拡大しており、依然として空海港からの侵入も危惧されている。

このため、本事業によりソウル市への定期便が就航している松山空港で、これらの疾病に対する水際対策を実施した結果、飼養豚での発生は豚熱 1 件のみでまん延を防止することができた。目標値からは増加しているが、国内外の豚熱やアフリカ豚熱の発生状況を鑑みると事業成果は評価できると考える。

高病原性鳥インフルエンザについては、令和 6 年度も国内養鶏場で 51 事例の発生が認められる中、本事業により緊急消毒を実施したことで、野生動物及び環境中から農場へのウイルスの侵入を防止し、目標値どおりの 2 件で押さえ込み、近隣の養鶏場へのまん延を防止したことは評価できる。

しかしながら、豚熱は県内のイノシシでの発生が継続的に認められており、高病原性鳥インフルエンザも流行期間の延長や毎年の国内発生が危惧されるため、引き続き発生予防に努めていただきたい。

第三者の主なコメント

【公益社団法人愛媛県獣医師会 会長 戒能 豪】

令和 6 年度は、豚熱 1 件、高病原性鳥インフルエンザ 2 件県内で発生したが、本事業によりまん延を防止したことは高く評価できる。

国による評価の概要

管内で C S F ・ A S F の発生リスクが高まる中、空港における水際対策や、R 5 補正予算を活用して地元の猟友会と連携した野生いのししサーベイランス検査体制づくりの強化にも取り組み、また、隣県で発生した H P A I により県内の発生リスク低減に積極的に取り組んだことで、目標値は達成されており、特定家畜伝染病に係る事業は適切に実施されたと評価する。

今後も、飼養衛生管理基準に基づく継続的な衛生指導の実施により、県内全体の衛生レベルの底上げや維持に取り組まれることを期待する。